

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年2月14日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 大田花き

コード番号 7555 URL <http://www.otakaki.co.jp>

代表者 (役職名) 代表執行役社長

(氏名) 磯村 信夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役管理本部長

(氏名) 金子 和彦

TEL 03-3799-5571

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	20,292	3.6	216	26.3	236	18.5	140	30.9
22年3月期第3四半期	19,583	△2.9	171	40.2	199	24.3	107	18.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	29.36	—
22年3月期第3四半期	20.30	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	7,079	4,245	60.0	851.36
22年3月期	5,737	3,520	61.4	827.78

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 4,245百万円 22年3月期 3,520百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
23年3月期	—	0.00	—		
23年3月期 (予想)				12.00	12.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,100	2.8	290	11.9	309	5.4	180	7.8	42.32

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他 （詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

（注）「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期3Q	5,500,000株	22年3月期	5,500,000株
② 期末自己株式数	23年3月期3Q	513,799株	22年3月期	1,246,800株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期3Q	4,788,888株	22年3月期3Q	5,290,778株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	4
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(第3四半期累計期間)	7
(第3四半期会計期間)	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	10
品目別売上高	10

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期会計期間における我が国の経済は、今期に入り続いていた緩やかな回復基調から停滞感が出た状況となりました。個人消費においては価格志向は変わらないものの、価値ある商品やサービスに対しての需要は戻ってきており、メリハリが利いた状況となっています。

当第3四半期会計期間における花き業界では、切花・鉢物とも夏の猛暑の影響を強く受けました。開花は1～2週間遅れ、品質は例年の1～2ランク下がったものが多く、流通量は前年の10%程少ないといった状況でした。需要面においては、ギフト・クリスマス商戦は期待外れでありましたが、お正月向けは堅調でありました。

当社はこのような状況の中、まず不足量を補い、品揃えを整えることに注力しました。量が不足しても、品質も低下しているため、小売現場では価格を下げざるを得ません。そうさせないためには、例えば丈は短くともボリュームのあるものや、花持ちの良いものを切花、鉢物とも集荷すべく産地の協力を仰ぎました。

結果として前年並の入荷量を確保することができ、地方市場、仲卸、大手小売業者中心の販売となりました。今期に入り順調な販売であった量販店は「欲しいところ」よりやや上の価格水準であったため、予定していたものを予定通りに仕入れることが難しいという面もありました。しかし、量販店の一部には切花を「第3の生鮮」と位置付けているところもあり、12月の迎春用の花などについては力を発揮していました。

以上の結果、当第3四半期会計期間(平成22年10～12月)の業績は、売上高7,269,725千円(前年同期比4.1%増)となり、その内訳をみますと、切花の取扱高6,620,087千円(前年同期比4.2%増)、鉢物の取扱高623,819千円(前年同期比3.0%増)、付帯業務収益25,818千円(前年同期比7.0%減)となりました。利益につきましては、営業利益105,810千円(前年同期比42.5%増)、経常利益110,264千円(前年同期比34.8%増)、四半期純利益67,615千円(前年同期比79.8%増)と増収増益となりました。

品目別の概況は次の通りです。

切花

キク類	売上金額	1,320,829千円(前年同期比 0.4%減)
	取扱数量	26,949千本(前年同期比 3.0%増)

・キク類全体的では、夏の猛暑の影響が品質面や入荷量に現れ、需要に対して品薄傾向でした。また、お盆・お彼岸の需要期に全国的に流通量が減少し、品不足となったことから、大口の顧客を中心に年末需要期には必要なものを早めに注文するなどの動きがありました。

・輪菊では、白菊を中心に10～11月に出荷を予定していたものが、夏の暑さのため、作付け時期がずれるなどしたことで品薄となり、堅調な相場となりました。色菊においても作付けが少ないことで流通量も減り、前年に比べると高めの相場水準となりました。

・小菊は、大きな需要がない10～11月にかけては、安定した取引となりました。年末の需要期は、主力となる産地において台風の影響があったことから、品質の低下や計画より少ない出荷となりました。

・スプレー菊も国内産地においては夏の猛暑の影響が残り、出荷時期が不安定になるなどしました。しかし海外産地からの輸入も多く、大きな需要がない時期でもあり、落ち着いた取引となりました。

洋ラン、バラ、カーネーション	売上金額	1,628,702千円(前年同期比 3.3%増)
	取扱数量	24,637千本(同 3.1%増)

・バラは前年並みの入荷量となりました。しかし、国産上位等級品などは、秋のブライダル需要が前年に比べると活発であったため、不足感がありました。クリスマス需要は、例年に比べると落ち着いていて赤系も好調ではありましたが、例年ほどの価格の上昇はみられませんでした。

・カーネーションは、夏の猛暑による影響から生育が良くないものもあり、国産品は品薄の状況でした。スプレーカーネーションも開花が遅れ、産地の切り替わる時期には特に不足しました。国産品の不足を補うべく輸入品の入荷を促進したことで、結果的には前年を上回る入荷量となりました。販売面では、他品目でも品薄の状況が続いていたため、代替品としての動きもあり、業務需要・小売需要を中心に活発に取引されました。12月に入ると出荷が遅れていた他品目も出揃ったことで、需要が減退しましたが、期間を通してみると、前年を大きく上回る販売金額となりました。

・洋ラン類では、オンシジュームは期間を通して前年を上回る入荷量となりました。適正価格で取引されるように販売促進したため、10～11月は前年を上回る販売金額となりました。デンファレは色によっては不足感があるものもありましたが、概ね国内・海外の各産地、好調な入荷となりました。カトレアは、国産品が多いこともあり、夏の猛暑による影響を受け、出荷が遅れました。

球根類	売上金額	1,098,975千円(前年同期比 0.9%増)
	取扱数量	10,557千本(同 12.4%減)

・ユリ類は全体的に、前年を下回る入荷量となりました。これは夏の猛暑によって地中の温度もあがったことで、球根の定植遅れや劣化などが起き、各産地とも出荷量を大きく減少させたことなどによります。全国的な品薄のためにブライダルや業務需要においては、ピンク系など人気の色を中心に堅調に推移しました。

・ダリアやアルストロメリアもユリ類同様、猛暑によって球根に障害が出るなどし、入荷量は減少しました。10～11月にかけては、秋のブライダルシーズンで需要が高まるものの、それに見合った品質のものが充分に入荷せず、品薄高で推移しました。

・季節商材として、チューリップは猛暑による作付け遅れなどが影響し、例年より出荷時期も遅れました。そのため、クリスマスや年末需要期にかけて、品薄であったことから引き合いが強まりました。スイセンはお稽古需要、年末需要などによって、安定した販売になりました。

草花類	売上金額	1,495,751千円(前年同期比 8.7%増)
	取扱数量	26,965千本(同 1.4%減)

・トルコギキョウは、前年に比べると活発なブライダル需要を中心に安定した取引となりました。10～12月を通して国産品は少なめの入荷となりましたが、輸入品が多く入荷し、結果的に前年を上回る入荷量となりました。

・カスミソウは、天候の影響から高冷産地の出荷終了時期が早かったため、端境期である10月にかけて品薄となり、高めの相場で推移しました。また、販売面では「いい夫婦の日」にフェアを実施する小売店などもありました。

・ガーベラは改植が少なかったことにより、前年より少なめの入荷となりました。そのため安定した相場展開となりました。ブライダル需要では大輪系が、クリスマス需要では赤系が人気でした。

・季節商材では、ハロウィン用のカボチャは小さなサイズのものが好評でした。ストックは夏の高温が影響し出荷時期が遅れました。年末需要期には量販店などを中心に引き合いが強い状況でした。スイートピーは生育状況もまずまずで、前年並の入荷となりました。

枝物・葉物	売上金額	1,075,827千円(前年同期比 9.4%増)
	取扱数量	19,344千本(同 5.9%増)

・枝物では、秋になっても残暑が厳しく夜温が下がらないことなどから、紅葉物は赤くならず、なつてもすぐに散ってしまうなど、十分な品質のものを確保することが難しい状況でした。

・お正月商材の松・千両は、春先の低温や夏の猛暑といった影響を受け、全国的には品薄傾向でありました。当社においても、根引き松など入荷減となったものもありましたが、近年需要が増えているカラゲ松の集荷を強化するなどし、また販売面においても、量販店へ向けた取組みを強化するなどしたことから、概ね前年並の入荷となり、販売金額でも前年を上回る結果となりました。

・葉物は、国産品において、台風被害を受けた産地や、時期的に今期の出荷が終了となる産地もあるため、外国産の入荷を促進するなどしたことから、前年を上回る入荷量を達成しました。花が少ない状況が続くため、様々な用途に使えるレザーファンやモンステラには需要も多く、入荷量・販売金額ともに伸びました。

鉢物

鉢物	売上金額	623,819千円(前年同期比 3.0%増)
	取扱数量	2,352千鉢(同 13.6%減)

・洋ラン類では、主力のファレノが比較的安定した取引となり、鉢物の取引全体をけん引しました。シンビジュームは夏の猛暑による影響から、12月の需要期に向けた出荷が大幅に遅れました。

・季節の主力商品であるシクラメンも、夏から秋にかけての猛暑・残暑によって、出荷時期が遅れました。また品質面の低下も見られました。ポインセチアも同様の傾向により、需要期に品薄傾向であったため、前年を上回る相場で推移しました。いずれも需要期後半にかけては、値下がりしましたが、前年に比べると下げ幅が小さく、落ち着いた販売状況で終わりました。

・パンジーやプリムラ類などの花苗物類も暑さに弱く、夏の高温によって生育不良となるなどし、入荷量が大きく減少しました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、第2四半期会計期間末と比較して1,077,712千円増加し、7,079,441千円となりました。その主な内訳は、資産につきましては現金及び預金の増加286,186千円、売掛金の増加639,034千円であります。

(負債)

負債につきましては、第2四半期会計期間末と比較して1,010,096千円増加し、2,834,391千円となりました。その主な内訳は、受託販売未払金の増加964,527千円であります。

(純資産)

純資産につきましては、第2四半期会計期間末と比較して67,615千円増加して4,245,050千円となりました。その主な内訳は、利益剰余金が67,615千円増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

① (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の増加等により増加した資金は595,526千円（前年同期比4.0%増）となりました。

② (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、関係会社への貸付、有価証券の取得等により使用した資金は217,970千円（前年同期は得られた資金985,387千円）となりました。

③ (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式売却等により増加した資金は573,756千円（前年同期は使用した資金1,134,012千円）となりました。

この結果、当第3四半期累計期間末の現金及び現金同等物の残高は前事業年度末より951,312千円増加し、2,776,715千円となっております。

(3) 業績予想に関する定性的情報

本資料の公表時点において、平成22年5月14日決算短信にて公表しました平成23年3月期通期業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

・ 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期会計期間末の貸倒実績率等が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前事業年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

・ 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、当事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

②四半期財務商標の作成に特有の会計処理

・ 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これによる営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益への影響はありません。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,776,715	1,825,402
売掛金	1,963,278	1,689,474
その他	295,203	177,524
貸倒引当金	—	△3,132
流動資産合計	5,035,197	3,689,268
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	168,649	174,376
工具、器具及び備品(純額)	211,383	254,332
その他(純額)	126,490	117,309
有形固定資産合計	506,524	546,018
無形固定資産	81,680	119,924
投資その他の資産		
関係会社株式	603,735	603,735
長期前払費用	195,341	212,221
その他	699,473	608,804
貸倒引当金	△4,910	△5,023
投資損失引当金	△37,600	△37,600
投資その他の資産合計	1,456,040	1,382,137
固定資産合計	2,044,244	2,048,080
資産合計	7,079,441	5,737,348
負債の部		
流動負債		
受託販売未払金	2,021,400	1,418,097
買掛金	41,711	11,711
未払法人税等	33,683	119,703
賞与引当金	17,545	30,400
その他	232,500	177,868
流動負債合計	2,346,840	1,757,781
固定負債		
退職給付引当金	157,834	137,805
その他	329,715	321,039
固定負債合計	487,550	458,845
負債合計	2,834,391	2,216,626

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	551,500	551,500
資本剰余金	401,187	389,450
利益剰余金	3,729,096	3,639,552
自己株式	△436,733	△1,059,780
株主資本合計	4,245,050	3,520,722
純資産合計	4,245,050	3,520,722
負債純資産合計	7,079,441	5,737,348

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	19,583,163	20,292,042
売上原価	17,657,490	18,303,216
売上総利益	1,925,672	1,988,825
販売費及び一般管理費	1,754,414	1,772,551
営業利益	171,258	216,273
営業外収益		
受取利息	5,836	3,397
受取配当金	14,025	6,275
その他	9,667	10,551
営業外収益合計	29,529	20,223
営業外費用		
自己株式取得費用	1,235	—
雑損失	160	143
営業外費用合計	1,395	143
経常利益	199,392	236,354
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	3,245
特別利益合計	—	3,245
特別損失		
固定資産除却損	105	—
リース解約損	—	107
投資有価証券評価損	2,999	—
特別損失合計	3,105	107
税引前四半期純利益	196,286	239,492
法人税等	88,909	98,910
四半期純利益	107,377	140,582

(第3四半期会計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	6,984,089	7,269,725
売上原価	6,297,169	6,558,794
売上総利益	686,920	710,930
販売費及び一般管理費	612,650	605,120
営業利益	74,270	105,810
営業外収益		
受取利息	1,114	1,054
受取配当金	5,000	—
その他	2,672	3,544
営業外収益合計	8,786	4,598
営業外費用		
自己株式取得費用	1,235	—
雑損失	—	143
営業外費用合計	1,235	143
経常利益	81,820	110,264
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	4,924
特別利益合計	—	4,924
特別損失		
投資有価証券評価損	2,999	—
特別損失合計	2,999	—
税引前四半期純利益	78,820	115,188
法人税等	41,218	47,573
四半期純利益	37,602	67,615

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	196,286	239,492
減価償却費	149,858	139,965
賞与引当金の増減額(△は減少)	△16,100	△12,855
退職給付引当金の増減額(△は減少)	20,273	20,029
貸倒引当金の増減額(△は減少)	202	△3,245
受取利息及び受取配当金	△19,861	△9,672
固定資産除却損	105	—
投資有価証券評価損益(△は益)	2,999	—
売上債権の増減額(△は増加)	△664,010	△275,854
仕入債務の増減額(△は減少)	875,651	637,425
未収入金の増減額(△は増加)	△335	350
その他	35,621	36,770
小計	580,692	772,407
利息及び配当金の受取額	21,429	10,119
法人税等の支払額	△29,621	△187,001
営業活動によるキャッシュ・フロー	572,501	595,526
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	1,000,000	—
有価証券の取得による支出	—	△100,000
有形固定資産の取得による支出	△9,127	△7,553
無形固定資産の取得による支出	△17,177	△6,450
投資有価証券の取得による支出	△10,000	△50,000
投資有価証券の売却による収入	10,000	—
貸付けによる支出	△1,500	△56,000
貸付金の回収による収入	38,193	54,033
関係会社貸付けによる支出	△25,000	△52,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	985,387	△217,970
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△1,059,100	△860
自己株式の売却による収入	—	635,644
配当金の支払額	△65,828	△50,974
リース債務の返済による支出	△9,083	△10,053
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,134,012	573,756
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	423,876	951,312
現金及び現金同等物の期首残高	1,665,856	1,825,402
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,089,732	2,776,715

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成22年6月14日に第三者割当による自己株式の処分を実施しました。この結果、当第3四半期累計期間において株主資本が724,327千円増加し、当第3四半期会計期間末において株主資本が4,245,050千円となっております。

4. 補足情報

品目別売上高

当第3四半期会計期間の販売実績を取扱品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	当第3四半期会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)	前年同期比 (%)
受託品 (千円)	7,156,717	104.08
キク類 (千円)	1,307,230	99.92
洋ラン、バラ、カーネーション (千円)	1,625,687	103.24
球根類 (千円)	1,097,268	100.87
草花類 (千円)	1,491,470	108.45
枝物・葉物 (千円)	1,026,205	109.56
鉢物 (千円)	608,855	102.53
買付品 (千円)	87,188	109.11
キク類 (千円)	13,599	
洋ラン、バラ、カーネーション (千円)	3,014	
球根類 (千円)	1,707	
草花類 (千円)	4,281	
枝物・葉物 (千円)	49,622	
鉢物 (千円)	14,963	
合計 (千円)	7,243,906	104.13

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 上記の金額には、卸売業務に付帯する業務収益(当第3四半期会計期間25,818千円)は含まれておりません。